

会 議 録

会議の名称	令和7年度第3回名取市子ども・子育て会議
開催日時	令和8年2月9日（月） 午後2時00分～午後3時10分
開催場所	名取市民体育館 第一会議室
次第	1. 開 会 2. 挨拶 3. 議 第 （1）名取市こども計画のパブリックコメントの結果について 4. その他 （1）乳児等通園支援事業の利用定員について （2）第3期名取市子ども・子育て支援事業計画の乳児等通園支援事業の量の見込みについて 5. 閉 会
会議資料	資料No.1 名取市こども計画（案）に対するご意見と名取市の考え方について 資料No.1 （別冊） 名取市こども計画（素案） 資料No.2 乳児等通園支援事業の利用定員について 第3期計画の乳児等通園支援事業の量の見込みについて
公開・非公開の別 （非公開の場合 はその理由）	公開
傍聴人の数 （公開した場合）	0人
出席委員	前田有秀委員長、大原慎委員、大坂真夢委員、谷田茜委員、大内克浩委員、星香苗委員、武者千壽委員、小川ゆみ委員、安住克郎委員、佐藤真一委員
欠席委員	高橋佳織委員、佐久間絵梨香委員、久米智美委員、阿部伸昭委員、齋藤勇介委員
事務局	中山部長、西坂次長兼課長、渡邊補佐、齋藤係長、佐藤係長、相澤係長、菊池主査 委託事業者：株式会社ぎょうせい 二瓶研究員

<会議内容>

・開会に先立ち、資料の確認。

- 1 開会
- 2 挨拶
- 3 議題

(1) 名取市こども計画のパブリックコメントの結果について 資料No.1～名取市こども計画

委 員：今後のパブリックコメントの在り方について、1ヶ月くらいきちんと時間をとって意見聴取をしたほうが良いと思うので、次回以降検討していただきたい。(意見)意見の2番、「乳幼児の子育て支援の取組みに外遊びを入れてほしい」が本質かと思いますが、児童センター事業に含まれているとの回答は、児童センターの事業計画に外遊びに限らず乳幼児について含まれていればこの回答で良いが、記載はないのではないかと思うので、子育て支援としての回答をしっかりとの方が良いと思う。(意見)意見の4番、妊娠期の他者との交流について、計画内に記載済みとあるが、国の子育て支援拠点事業に妊娠期の交流が明記されているが名取市の第3期計画では読取れないが、国の事業同様に含まれているという意味でよろしいか。

事 務 局：児童センターは0歳から6歳までのお子さんでも利用の場ですので、乳幼児の遊びに関するところも児童センターの事業の対象の中に含まれるものととらえております。(事業計画内でも乳幼児とその保護者も対象の利用者として明記されている)

委 員：乳幼児期と意見にはありましたが、乳幼児期も児童センターで扱うのでということでもよろしいですか。

事 務 局：そのとおりです。

名取市の第3期計画に妊娠中について明記されておりませんが、国の制度に沿って事業を実施しておりますので、次期の計画で国の表記に修正していく予定です。

委 員：もっとうこういった会議に参加で子供連れOKが増えるといいと思う。12番の産後ケアについて、実際Webで申込みをしたことがあるが、多数の設問の入力があり、その後の保健師との電話で「何故使うか」「実家は近くないか」質問された。利用の際に必要な質問なのかもしれないが、産後のホルモンバランスでネガティブに感じ、その質問で責められているような気になった。その後、自宅で助産師と保健師が訪問で話を聞いたあと、産後ケアの介護士も別日に来て、何度も自宅に訪問されるのが負担となった。また、状況を説明した後に、別に来た人にも同じことを聞かれ、同じ説明を繰り返したことが苦痛であった。その辺は情報共有してくれれば良いと思う。

事 務 局：保健センターへ共有させていただきたい。

会 長：今回の会議は計画の話であるが、実際の支援の制度が折角あっても利用者が困ってしまったら意味がないと思いますので、今の意見を共有し、より良い事業運営をしていただければと思います。

委 員：今の制度の話だが、なぜ実家が関係あるのか。近くても頼れたら最初から頼っている頼れないから、頼んでいる。事業をやっています、という割には冷たいと感じる。

会 長：一応の確認行為だとは思いますが聞き方が大切だと思いますので、言い方について寄り添うよう、実施側が気をつけなければならないと思います。

委 員：沢山の質問や内容が利用者側のハードルとなっていることを理解したうえで使っても良いということを倍以上伝える必要があると思う。

委 員：子育てに対する考え方は昔と違う。昔のおじいちゃん、おばあちゃんという考え方が

抜け切れていないと思う。自分の考え方も、支援、声のかけ方、配慮の仕方も今の状況に合わせていかなきゃいけないと思う。

会 長：事務局何かありますか

事 務 局：保健センターの聞き方について、利用を妨げたいという思いはなく、ヒアリングの中の伝わり方が良くなかったのかと思うので、そういった思いについて、保健センターと共有したいと思います。

会 長：先ほど、修正の箇所についても説明があったかと思います。遊び場・プレーパークのこと、利用者支援のところですね。それ以外は参考となりますが、他にありますか。

委 員：追加されたプレーパーク事業について、新規で追加となっておりますが、他課の事業であったから計画にカウントされていなかったということか。

事 務 局：本来第3期策定時の各課への照会で含まればよかったが、入っていなかった為今回新たに追加となった。

委 員：実際すでに取り組んでいることですよ

事 務 局：そうです。

委 員：取り組んでいることはどんどん入れたほうが良いですよ。

会 長：他にご意見・ご質問等ございますか。

→なし

会 長：今日のご意見を踏まえまして、計画の整備と、各関係機関の職員の理解についてぜひ市で共有していただいて、心地よく使える制度にしていだければと思います。

4. その他

(1) 乳児等通園支援事業の利用定員について

(2) 第3期名取市子ども・子育て支援事業計画の乳児等通園支援事業の量の見込みについて

委 員：愛島児童センターについて、月曜から金曜日の9時から12時までの3時間だと、学校の長期休業中は大丈夫か？また、預かり時間の3時間は短いのではないか。病院に行って時間内に戻れないのではないか。また、美容室でもそれ以上かかると思う。3時間から4時間ともう少し拡充ができないか。

事 務 局：事業所の現在の利用の在り方に合わせると3時間が限界だと思うが、需要の様子を注視し、対応できるものは対応していくようになる。

委 員：予約とるときは先着となるか？

事 務 局：先着となる。面談が終了した子に対して枠を設けて申し込みを受けるようになる。

委 員：一人あたり月10時間利用が可能か。

事 務 局：ひとり月10時間まで利用が可能

会 長：まもなく開始するこども誰でも通園制度ですが、大学の授業のレポートで社会の子育てに関するニュースを考察するよう課題を出したら、一番取り上げられた話題がこの制度でした。学生も気にしているトピックスとなっています。

一応計画はこのとおりですが、実際に実施して、これを利用することで、社会にこどもや親が関わるきっかけとするための制度。

委 員：確保方策の840という数字は変えずにそのまま出すということか。

事 務 局：国から提示されている計算式だとこの数字となるので、現段階で出せる数字はこの数値となる。後々は実績に基づき修正をかけられるようになる。

会 長：よろしいでしょうか、その他について、何かご質問等ありますか。

委員：素案について、最終系は冊子になるイメージでよろしいか。

事務局：この内容で承認いただければ、軽微な修正は事務局で修正のうえ、冊子で完成となる。

委員：計画の31ページの自己肯定感や自己効力感の「」書きがどういうことなのか、わかりづらいと感じる。パッと見たときに違和感のある書かれ方だと思う。

委員：問いがないから、どうしてこれになったか、ということですね。引きこもり傾向がある方はこういう回答になるということでしょうか。

引きこもり調査は前からやっている？今回初めて？

事務局：計画範囲が39歳まで広がったことにより設問も少し変更してあります。

委託事業者：引きこもりは、こども関連のアンケートというよりは、健康について、いわゆる保健分野で引きこもりのアンケートをすることが多く、各自治体で策定している自殺対策計画の統計を取るうえで、引きこもり傾向がある方のメンタル状況がわかるようになっている。こども計画は今回が第1期となり、初めての策定であるため、こどもたちを含め若い世代が自分の環境、メンタル面での状況分析も必要であると思い、アンケート内容としてご提案させていただきました。

会長：「」書きのわかりにくい部分については、修正するが、修正方法については事務局に一任ということで、良いか。また、併せて軽微な文言修正を行っていいか。

委員一同：良い。

5. 閉 会

以上